

第 1 回下野市総合計画審議会に出された
意見・提言に対する回答について

【平成 3 0 年度】

[平成 30 年度第 2 回下野市総合計画審議会]

1. 基本目標の数値目標に関するもの

基本目標	② 東京圏からの新しいひとの流れをつくる 数値目標 「転入者数」・「東京圏からの転入者数」																																
委員名	島田委員																																
意見・提言内容	市の人口は増えていないと認識しているが、最終的には下野市にどの程度定着したかが重要であると思われる。転出者数はどの程度いるのか。																																
担当課	総合政策課																																
回答・対応	<p>来年度の評価分析シートより、備考欄に「転出者数」、「東京圏への転出者数」を参考として記載いたします。</p> <p>なお、平成27年から平成29年については、下記の通りとなります。</p> <p>1. 転入者数・転出者数</p> <table border="1" data-bbox="424 943 1433 1137"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年</th> <th>平成28年</th> <th>平成29年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転入者数</td> <td>2,309人</td> <td>2,276人</td> <td>2,412人</td> </tr> <tr> <td>転出者数</td> <td>2,437人</td> <td>2,283人</td> <td>2,201人</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>▲128人</td> <td>▲7人</td> <td>211人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(出展：住民基本台帳年報)</p> <p>※集計期間は各年1月～12月。日本人のみ。</p> <p>2. 東京圏からの転入者数・転出者数</p> <table border="1" data-bbox="424 1332 1433 1527"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年</th> <th>平成28年</th> <th>平成29年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転入者数</td> <td>479人</td> <td>443人</td> <td>455人</td> </tr> <tr> <td>転出者数</td> <td>702人</td> <td>648人</td> <td>604人</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>▲223人</td> <td>▲205人</td> <td>▲149人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※住基システムより都道府県別に抽出した概数のため、職権消除などは反映されていません。</p> <p>※集計期間は各年1月～12月。日本人のみ。</p> <p>【参考資料1-1】 下野市における人口動態</p>		平成27年	平成28年	平成29年	転入者数	2,309人	2,276人	2,412人	転出者数	2,437人	2,283人	2,201人	増減	▲128人	▲7人	211人		平成27年	平成28年	平成29年	転入者数	479人	443人	455人	転出者数	702人	648人	604人	増減	▲223人	▲205人	▲149人
	平成27年	平成28年	平成29年																														
転入者数	2,309人	2,276人	2,412人																														
転出者数	2,437人	2,283人	2,201人																														
増減	▲128人	▲7人	211人																														
	平成27年	平成28年	平成29年																														
転入者数	479人	443人	455人																														
転出者数	702人	648人	604人																														
増減	▲223人	▲205人	▲149人																														

2. 重要業績評価指標（KPI）に関するもの

KPI	1 4 市内農産物直売所の販売額
委員名	島田委員
意見・提言内容	販売額を伸ばすという目標は、直売所を増やしていくということも含めてのことなのか、それとも直売所は現状のままで販売額を伸ばしていくという目標なのか。また、その場合に市としてどのように支援していくのか。
担当課	農政課
回答・対応	<p>農産物直売所への支援については、栃木県6次産業化サポートセンターが行っている、6次産業化実践アドバイザーによる経営相談事業や6次産業化のスキルアップのための講座制研修会「とちぎ6次産業化実践塾」への参加を促していくほか、農林業者以外の事業者とのマッチングや異業種間交流を目的とした、商談会、相談会などの交流会情報を積極的に提供していきます。また、国の地方創生関連事業を活用し、中小企業診断士等による店舗経営診断や売れる店舗づくりなどの経営サポートを行い、今後の販売額増につなげていきたいと考えています。</p> <p>農産物を直売所に出荷する生産者については、園芸農業用機械・施設・資材導入などの市補助事業の活用により、安全安心で品質の高い農産物が安定して供給できるよう支援していきます。</p>

KPI	23 新規住宅取得者家庭菜園整備及び定住促進住宅新築等補助件数 24 生垣奨励金補助件数																																																																							
委員名	小島委員																																																																							
意見・提言内容	下野市では子育て世代の移住者を増やしたいということだが、若い世代の方々は、共働きの夫婦が多く、家庭菜園や生垣を手入れする時間をつくれる人は少ない。家庭菜園や生垣の手入れができるのは、定年を迎えた年配の方々ではないだろうか。また、生垣の手入れができずに、近隣の迷惑となるケースも出てくる可能性があるため、生垣の奨励だけでなく、その管理についても指導をお願いしたい。																																																																							
担当課	都市計画課																																																																							
回答・対応	<p>1. 新規住宅取得者家庭菜園整備件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20代</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p><都道府県別></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>埼玉</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>千葉</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>神奈川</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 定住促進住宅新築等補助件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20代</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>70代</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>80代</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>		H28年度	H29年度	H30年度	20代			1	30代	3	3	1	40代	2			合計	5	3	2		H28年度	H29年度	H30年度	東京	2		1	埼玉	2	1		千葉	1	2		神奈川			1	合計	5	3	2		H29年度	H30年度	20代	1	1	30代	3	8	40代		1	50代	1	1	60代			70代			80代		1	合計	5	12
	H28年度	H29年度	H30年度																																																																					
20代			1																																																																					
30代	3	3	1																																																																					
40代	2																																																																							
合計	5	3	2																																																																					
	H28年度	H29年度	H30年度																																																																					
東京	2		1																																																																					
埼玉	2	1																																																																						
千葉	1	2																																																																						
神奈川			1																																																																					
合計	5	3	2																																																																					
	H29年度	H30年度																																																																						
20代	1	1																																																																						
30代	3	8																																																																						
40代		1																																																																						
50代	1	1																																																																						
60代																																																																								
70代																																																																								
80代		1																																																																						
合計	5	12																																																																						

<都道府県別>

	H29年度	H30年度
東京	2	5
埼玉		3
千葉		
神奈川	3	4
合計	5	12

H30年度は、H31年1月末現在の件数

3. 生垣奨励補助金のPRについて

平成31年度より新設するブロック塀等撤去費補助金と合わせて、生垣奨励補助金も活用できることを周知し、利用促進を図ります。

生垣の管理については、緑の相談室などで指導が受けられることを周知していきます。

4. ブロック塀撤去に対する補助について

学童や通行人の安全を確保するため、道路等に面する危険なブロック塀の撤去費用を補助する制度を平成31年度より開始し、危険なブロック塀撤去の促進を図っていきます。

補助内容：市1/3 国1/3 上限20万円

【参考資料1-2】国土交通省住宅局平成31年度住宅局関係予算決定概要

KPI	6 1 子育て応援 HP「ママフレ」アクセス数
委員名	山口（貴）委員
意見・提言内容	<p>幸せ実感都市として子育て世代や女性の幸福度を掲げている下野市であるならば、それらに関する項目でD評価は出したくないところである。「ママフレ」について、どのようなホームページか確認をしたところ、各制度に関すること、このような困りごとなら相談窓口はどこか等の情報が掲載されていた。確かに、一度サイトを見て、制度等を知っている方なら再度見ることはないだろう。そこで、アクセス数ではなく、例えば、このホームページを見たことで窓口に相談に来た、病院に行ったなど、アクションを起こした数を指標にすることはできないだろうか。</p>
担当課	こども福祉課
回答・対応	<p>子育て世代を対象に行ったアンケート結果では、子育てに関する情報の入手先は、市広報紙・市ホームページが半数以上を占め、その他でも、友人等の口コミやネット検索によるものが多数でした。また、自由記載欄では、「市ホームページ情報との重複である」といったご意見もありました。</p> <p>母子手帳等のアプリ導入について検討しましたが、手持ちのスマートフォン等で管理できるなど、利便性は非常に高いものである一方、子どもの成長記録を将来に渡って残すことを考えた際に、キャリアの変更等によりデータが引き継げない恐れがあるため、先進事例を参考に引き続き検討してまいります。</p> <p>また、ママフレのサイトは、子育て情報に特化したものであり、制度の案内が主であることから、下野市メール配信サービス（下野インフォメーション）を有効活用し、予防接種情報や健診情報、子育てイベント等のメール配信及びサイトの広報を積極的に行い、メール配信登録者数を指標として事業を行っていきたいと思います。</p> <p>メール配信登録者数（医療・福祉）</p> <p>○平成29年度 1, 347件</p> <p>○平成31年度（目標） 1, 450件</p>

KPI	6 1 子育て応援 HP「ママフレ」アクセス数
委員名	佐間田委員
意見・提言内容	<p>①病院の待合室、保育園や学童保育のお迎え時、スーパーのレジ横、塾の送迎時、保護者がふと目にする場所は多々ある。そのような保護者が普段なにげなく目にする場所に「ママフレ」に関する掲示があると周知につながるのではないかと。</p> <p>②子育て世代の方からよく聞く声として、健診時に使用しているゆうゆう館の広い部屋を市民が借りることができないのかというものだ。なかなか、あれだけの広さの部屋がある場所はないため、ヨガや体操をしたりすることに使いたいという声が多くある。ゆうゆう館には、子育て支援センターもあり、お腹が空けばレストランもあり、とても活用しやすいスペースであるが、一般的な利用では借りることができない。一般利用に関して、検討いただけないか。</p>
担当課	<p>①こども福祉課</p> <p>②健康増進課</p>
回答・対応	<p>①「ママフレ」に関しては山口（貴）委員のご意見への回答のとおり、検討してまいります。</p> <p>② 下野市では、市民の方を対象とした健康相談、保健指導及び健康診査その他地域保健に関する必要な事業を行うことを目的とする施設（地域保健法第 18 条）として保健センターを設置しております。</p> <p>そのため、保健福祉センターゆうゆう館の保健センター部分では、健康増進課で実施している乳幼児健診や親子教室等の母子保健事業及び集団検診や健康づくり教室等の健康増進事業を行っており、その他、子育て支援センターや高齢福祉課等の事業の会場としても利用していますので、一般的な利用としての借用はしていません。</p> <p>なお、市内 3 か所の子育て支援センターでは、親子を対象とした体操教室等様々な教室を開催しております。また、ヨガや体操等で広いスペースを利用したいご希望があれば、保健福祉センターきらら館にあります多目的室等をご利用いただきますようお願いいたします。</p>

KPI	6 9 地域ふれあいサロンの設置数
委員名	三橋委員
意見・提言内容	サロンが増え、自宅の近くで通えることは大変よいことである。目標値としてサロン設置数を増やすことを掲げているが、増やすことだけに注力するのではなく、そのサロンの維持や継続についても行政としてフォローをお願いしたい。
担当課	高齢福祉課
回答・対応	<p>高齢化と核家族化の進行や介護者の高齢化、また、地域住民の関係性の希薄化等により、交流が減少し、孤立する高齢者が増えています。そのため、家に閉じこもらず、人と交流することやその場所で介護予防の取組みをすること等が重要であり、その居場所を増やすことを優先課題として取り組んでおり、また、そこが世代間交流の場や障がい者の居場所として活用できることが望まれますので、内容充実に向けて支援していきます。</p> <p>地域ふれあいサロンを継続していくためには、サロンを運営する人材が必要になりますので、「しもつけ元気はつらつ体操サポーター養成講座」や「サロン運営担当者研修会」「サロン運営者意見交換会」等を開催し、担い手の養成と情報交換を行いながら継続した事業が実施できるよう関係機関と調整を図っております。</p> <p>地域の人材把握・育成は、地域包括ケアシステム構築の重要な部分でもありますので、庁内関係部署や関係機関等と連携を図りながら地域の人材の活用を進めてまいります。</p>

KPI	100 防犯の取組の満足度
委員名	前原委員
意見・提言内容	防犯灯は、電柱のあるところに設置されているが、農村地区の田畑の周りには電柱がない。南河内中学校の地区の通学路を実際に見てまわったが、田畑の中に電柱がなく防犯灯もついていなかった。太陽光パネルを取り付けた防犯灯の設置はできないだろうか。
担当課	安全安心課
回答・対応	<p>電柱の無い区域への防犯灯の設置については、設置する場所の土地所有者、地元自治会、電力会社や市関係課と現地を確認すると共に、設置の必要性も含めて検討してまいります。</p> <p>通学路の安全対策として、宇都宮国道事務所・栃木土木事務所・下野警察署・下野市スクールガードリーダー及び市関係課で構成する「下野市通学路安全推進会議」において、横断歩道、信号機及び防犯灯等の安全施設に関する要望について協議しております。防犯灯の設置については自治会を通しての申請となるため、設置の必要性も含めて協議してまいります。</p>

KPI	104 市民と企業・行政の協働による環境保全活動の実施
委員名	鈴木委員
意見・提言内容	今年度の目標値となっている47事業について、ぜひ公開していただきたい。
担当課	環境課
回答・対応	<p>下野市環境基本計画に協働プロジェクトとして掲げられた取組や指標を目標値として設定しております。本計画は、市のホームページで公開しており、実施した取組の実績については、本市環境状況報告書「しもつけの環境」に掲載し、市のホームページや広報紙により毎年公表しております。</p> <p>平成29年度に改訂した環境基本計画の協働プロジェクトである47事業については、取組内容や指標及び目標値を平成31年1月からホームページで公開しております。今後は、環境基本計画を推進するための庁内組織である下野市環境基本計画推進委員会において、毎年それぞれの指標の推進状況を点検し、課題の確認とその改善のための取組を各実施計画に反映させ、目標の達成を図ります。</p> <p>【参考資料1-3】下野市環境基本計画における協働プロジェクト一覧</p>

KPI	105 公共交通の整備の取組の満足度
委員名	鈴木委員
意見・提言内容	<p>市内の高齢者の実態調査を昨年より行っており、その中でも特に、二次交通に関する課題は大きいと感じている。今後も、ますます高齢者の足の確保が課題として出てくるのが予想されるので、指標でもある「満足度」を上げるためにも、この点について前向きに検討していただきたい。また、石橋地区では、獨協医科大学病院に行きたいが、タクシーしかないという声も聞く。毎回タクシーというのは、通院する高齢者にとっては金銭的にも負担が大きい。近隣自治体との広域での公共交通についても検討すべきである。</p>
担当課	安全安心課
回答・対応	<p>デマンドバスについては、公共交通会議の中で市民が利用しやすい公共交通を目指して協議・検討しておりますが、地域公共交通の維持・改善に関する問題は、交通分野の課題解決だけでなく、まちづくりや観光、福祉など様々な分野でも大きな効果をもたらすことになるため、効率的な公共交通体系の構築を目指し検討していきます。併せて、高齢化などで変化する地域の生活ニーズを把握するために、市民の利用実態やニーズに関する調査を実施し、市民の意向を把握しながら今後の公共交通へ反映させ改善を図ってまいります。</p> <p>また、下野市、壬生町、上三川町の1市2町による広域連携の中で、現在、路線バスの実証運行に関する協議を重ねており、上三川町内からJR石橋駅を經由し、壬生町の独協医大病院へのルートを想定し協議しています。今後、運行車両や時刻表等について更に協議し、平成31年10月からの実施に向けて準備を進めていきます。</p>